推進地域における活動の具体的な内容及び成果と課題

大田市立仁摩中学校

①小・中・高等学校を通じた組織的・系統的なキャリア教育を行うための指導方法、指導内容について

平成１６・１７・１８年度キャリア教育推進地域指定事業組織の編成

・組織編成の目的

小・中・高一貫のキャリア教育を円滑に推進するため、島根県教育委員会、関係諸団体のご支援を得ながら、３校が共同してこの事業を展開する。

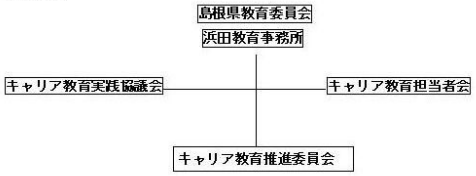
指導方法については現在模索の状態だが、義務教育の小中学校と、高等学校の考え方の差違、あるいは地域家庭の指導力とのコラボレーションにおいて工夫の余地がある。

平成１６･１７･１８年度キャリア教育推進地域指定事業組織図

１．組織編成の目的

･小･中･高一貫のキャリア教育を円滑に推進するため、島根県教育委員会他、関係諸団体の深甚なご支援を得ながら、３校が共同してこの事業を展開する。

２．研究組織



研究推進部(各校２名)	地域連携部(各校２名)
主な活動内容	主な活動内容
･研究の基盤づくり (目的･内容･方法等) ･小･中･高のカリキュラムの調整 ･公開授業計画	･キャリアアドバイザーの確保 ･地域との協力･連携 (職場体験･インターンシップ等) ･家庭･地域への啓発 (広報の発行･配布　講演会企画等)

３．組織の活動

･この組織は、キャリア教育推進委員会を中心母体として活動する。

･キャリア教育推進委員会は、この共同研究を推進するため、会長の招集により、適宜会議を開催する。(学期に１～２回程度)

･２つの専門部(研究推進部、地域連携部)は、それぞれの活動内容について、各校相互に連絡を密にし、正･副部長を中心に推進する。そのため、必要に応じて各専門部会を開催する。(数回程度)

･各専門部長は、それぞれの協議内容等について、キャリア教育推進委員会開催時に報告するものとする。

②キャリアアドバイザーの確保及びその活用のあり方について

●キャリア・アドバイザーによる生徒、保護者、教職員の意識を高める。

［学校に対して］

・特別活動、総合的な学習の時間等における指導・助言

・キャリアカウンセリングにおける指導・助言

・教職員へのキャリア教育に関する校内研修での指導・助言

［保護者・ＰＴＡ等に対して］

・保護者やＰＴＡ活動での説明会等における指導・助言

［地域へ対して］

・地域におけるキャリア・アドバイザーの人材確保

・職場体験に関する事業所の開発や意義の周知

・その他 キャリア教育推進に関すること全般への指導・助言

③職場体験活動推進のためのシステム作りについて

仁摩職場体験学習推進地域協議会（キャリア・アドバイザー会）について

○構成メンバー

・商工会関係者　（商工会より）　・農協関係　（農協より）・林業関係　（林業関係より）

・水産関係　　（漁業会より）　・PTA 関係　（会長）　　・行政関係他

○協議及び活動内容

・組織設置の趣旨説明及び活動予定説明　　…　５月

　　平成１６年度の職場体験学習の報告・平成１７年度への課題及び実施方向等提案

・平成１７年度の職場体験学習等（１年・２年・３年）の計画説明…６月

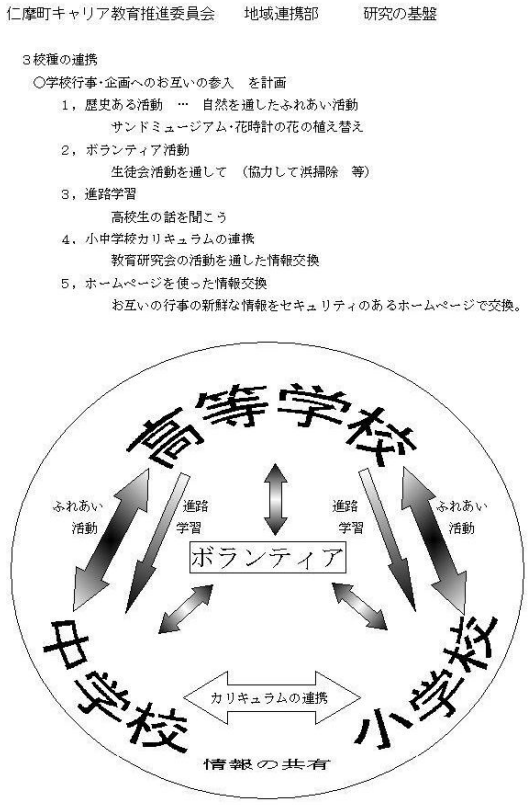
・職場体験状況視察等　８月下旬～９月実施予定

・　　同上の　　実施報告会の開催　　…　１０～１１月

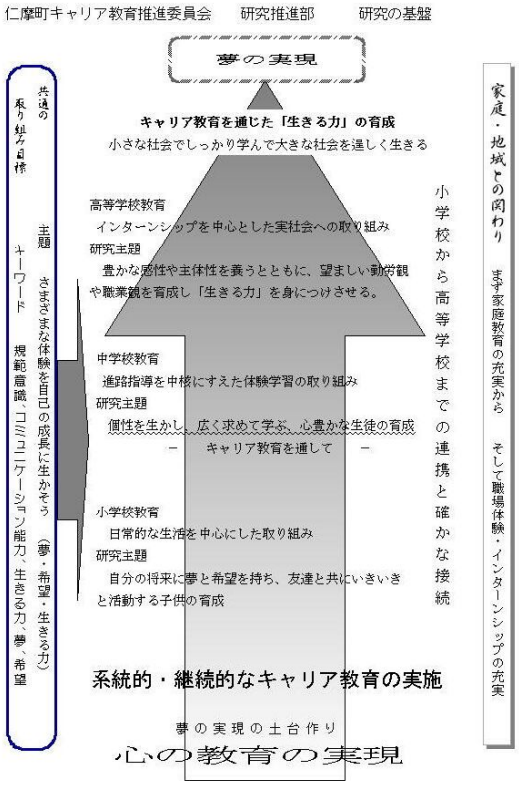
・平成１７年度反省報告会・その他　　…２月

④推進地域における活動の成果と課題について

地域連携部の活動



研究推進部の活動



地域連携部も研究推進部も、学期に１回しか３校が集まることができなかった。電話そのほかで連絡はとるものの、連携会合の時間の確保が今後も問題となる。

⑤推進地域における活動課題に対する取り組み方針について

後ほどの（３）③にも関わるが、生徒につけたい力を、コミュニケーション能力としてスタートしたキャリア教育推進地域連携事業だが、その根底にある、生徒像（生徒に期

待する姿）が、見えてきたと思う。その生徒像の育成のために、いかに具体的な活動を打ち出すかが、完成年度（１８年度）の最重要課題だと考える。

改めて、キャリア教育は、全教育活動の根幹にあると考えることができると思う。

⑥都道府県・指定都市教育委員会の地域・学校に対する支援内容について

各校でやっている事業、取り組みを、いかに地域に伝え協力を得るかという支援がもっとも必要であろうと考える。それは、保護者であり、地域の関係諸機関、事業所、一般の皆さんに、学校は何をどう考えて実践しているのか、それを、社会教育はどう理解しどう支援しているか伝えるという作業を、前向きに展開していただきたい。

⑦キャリア教育実践プロジェクト（キャリア・スタート・ウイーク推進地域）との連携について

⑥にも関わるが、これ以上職場体験やインターンシップを増やすことは、職場事業所に大きな負担を強いることになる。これの理解と、支援を、行政の立場から、人的にも物的にも支援する体制が必要不可欠であろうと考える。

⑧関係諸機関、他府省事業との連携について

3 年生対象　5 月　キャリア意識啓発セミナー　第１回
　　漁業を通して仕事を考える　浜田水産高等学校　坂根先生
3 年生対象　7 月　キャリア意識啓発セミナー　第２回
　　プロの技と考えにふれる　　浜田ビューティーカレッジ　出前授業
3 年生対象　9 月　キャリア意識啓発セミナー　第３回
　　職場体験を前にした礼節講座
　　job カフェしまね　地元キャリアアドバイザー（3 名）連携事業
2 年生対象　9 月　修学旅行において「私の仕事館」体験学習
　　京都にて　職業インタビュー実施　報告公開授業
1 年生対象　2 月　キャリア意識啓発セミナー　第４回
　　あいさつについて学ぼう　job カフェしまね　講師　田中裕子様

各実践協力校における活動の具体的な内容および具体的な内容及び成果と課題

①　上の①をふまえた各実践協力校における活動の具体的な内容

仁摩中学校の職場体験学習の計画

2 年生と、3 年生　前年の経験を生かした、2 回の職場体験学習（計 4 日間）

○日時　　２年生　49 名　　平成 17 年 8 月 23 日（火）～ 26 日（金）
　　３年生　46 名　　平成 17 年 9 月 15 日（木）・16 日（金）

○目的　・２年生は初めての職場体験学習を通して、仕事に対する苦労や喜びを知り、職業に対する意識を高め、自分の将来の指針とする。

・３年生は昨年の経験と反省を生かし、お世話になる職場で少しでも役に立てるような活動を展開する。

○体験を協力頂いた事業所数　　31 事業所

②各実践協力校における活動の成果と課題

成果

□２年生３年生と２回の体験活動を受け入れていただいた結果

■３年生になって向上した面

○２度目ということもあり少しリラックスできたのではないでしょうか。従業員の皆さんとも楽しそうに　お話ができていました。

○昨年体験されているということで動きがとても良かったです。もう少し元気があるとさらに良かったと思います。

○昨年に比べて、全体に落ち着きと余裕がありました。また、救命講習の再実習において学習力の高さに驚かされました。ロープ結索時の集中力、習得心も強く感心しました。

○昨年の反省で挨拶や声が小さかったと反省しておられましたが今回はよかったと思います。欲を言えばもう少し元気があってもよかったと思います。

○少し笑顔が見られたところと返事ができたところ。

○ハキハキと答えることができる。笑顔が自然に出てきてとても良い感じになった。落ち着いた感じがして安心できる。

■やや意識が低下したと思える面

×意欲が乏しくなったように見えた。

×同じ職場でなく様々の職種を体験してみられた方がよいのではないかと思う。

□所見

工夫し、たくさんの仕事を体験させてくださった事業所も、本当に地道な取り組みを経験させてくださった事業所も、子供たちへのメッセージをしっかり伝えていただいたと思います。今年から 3 年生でも職場体験に向かうことになり、働くことに対し意欲を高めることのできた生徒もいましたが、「3 年になって今こんなことをしなくても…」という意識の生徒も、保護者もいたことを感じます。しかし、全体には今年の３年生が頑張ってくれたことで、次年度の現在２年生の諸君は、「３年生になってもう一度この職場で」と意識し活躍できたようです。

課題

次年度の課題として、前述したことから職場体験学習と学力の向上がどう結びつくのかを、生徒にも保護者にも理解できる形で示す必要があると感じました。

まず、学力がついてこその学生だと考えます。

①この職場体験学習がどう学力の向上につながるのか。

（職場体験で夢を持つ。→夢の実現のためには学力が必要。）

②仕事をすると言うことはどんなことにも挑戦しなくてはいけない。

（それは、どんな学習にも挑戦していくことにつながる。

→勤労意欲とは学習の意欲にもつながる。）

③勤労意欲はまず家庭での手伝いが基本

働くことは

家族の一人として何が出来るか？

学校の生徒として何が出来るか？

社会の一員としてで何が出来るか？

これを追求することではないのかと考えます。

そのために、どんな力をつけるか考えることが重要だろうかと言うことを考えていきたいと思います。

③各実践協力校における活動課題に対する取り組み方針について

次年度のキーワード　それは　「生徒の土台&力」

そのために、まず学校の平生を自分たちで高めていく意識を持とう。

①学校環境を美しくする。

②学習学力の向上を考える。

その上で

「自分が、学校の役に立つ人間か」を考えて行動する。

さらに

「自分が家庭の役に立つか」「自分が地域の役に立つか」

それが将来的に

「自分が社会の役に立つか」

という勤労観に成長していく土台になると考える。

そして体験活動の高揚感を生むために、生徒が自分の変化に目を向けられるようにする工夫を進めたい。

「自己の変化の実感」そうすることで　体験活動を自己肯定感につなげる。

そして、先生方一人一人がキャリア教育をきちんと語れる。さらに、小中高すべての先生がキャリア教育を語れるようになる。これが、一番の連携だろうと考える。

④各実践協力校における児童生徒の勤労観職業観に対する意識の変容等について

このあと、昨年からの変容について、アンケートを予定しています。が、何をどうとらえて生徒の変容と見るか、再度検討しております。変容は、学校生活、家庭生活の中で生徒に現れるものというとらえ方で観察もできるのではないかとも、考えます。